

2004年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度において、極付近は正偏差に覆われたが、東シベリア付近を中心にロシア西部から北米大陸西部にかけて負偏差が見られた。中緯度域では中央アジアから極東付近、太平洋東部にかけて広く帯状の正偏差が見られた。北米大陸東部はラブラドル半島付近に中心を持つ正偏差に覆われ、イギリス付近には負偏差の中心が見られた。

熱帯の対流活動は、インドネシア付近から南シナ海、東南アジアにかけて月を通して平年より不活発となった。一方、西部太平洋赤道域(150~170°E)からフィリピンの東海上では、上旬は赤道季節内振動(MJO)の活発な位相が通過し、平年より活発となったが、中旬以降は不活発となった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋東部からインドネシア付近で対流活動が不活発だったことに対応して、東南アジアと南インド洋に高気圧性循環偏差が見られ、インド洋東部から南シナ海にかけて東風偏差となった。一方、太平洋赤道域の東西風はほぼ平年並だった。またフィリピンの北東海上には、台風に対応する明瞭な低気圧性循環偏差が見られた。

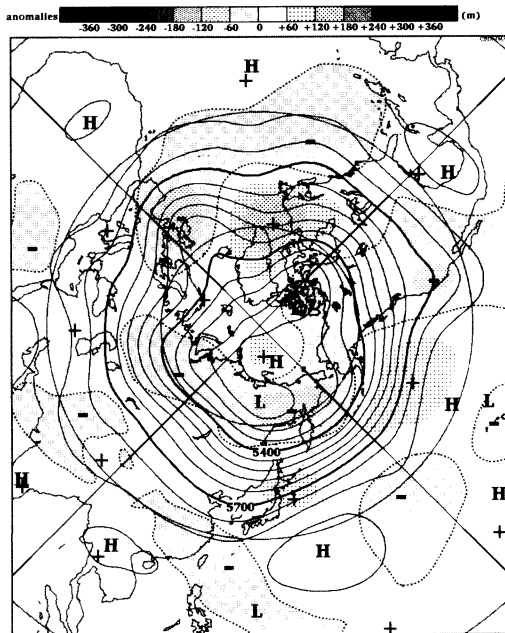
SOIは先月と同じく-0.2となり、SOIは6月以降、

5か月連続の負偏差となった。

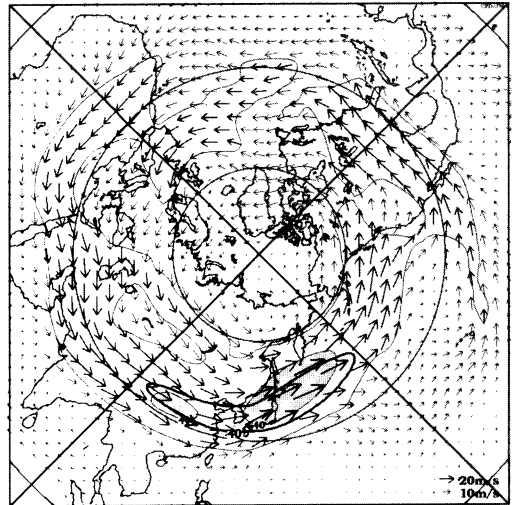
世界の天候

- ① 東日本から西日本の多雨
- ② モンゴルの少雨
- ③ 中国南部からインドシナ半島の少雨
コワントン(広東)省など華南では54年ぶりの厳しい干害と伝えられた。
- ④ インド北西部からパキスタンの多雨・低温
- ⑤ ヨーロッパ南部からアルジェリアの高温
- ⑥ ヨーロッパ西部の多雨
ポルトガルでは上旬と中旬に、アイルランドやイギリス南西部では下旬に、嵐の通過により、死者・行方不明者が出たと報じられた。
- ⑦ サヘル域西部の高温
- ⑧ ラブラドル海周辺の高温
- ⑨ 米国南部からメキシコの高温
- ⑩ 米国西部の多雨
- ⑪ アラスカ西部の高温
- ⑫ 南米北部の高温
- ⑬ ミクロネシアの高温

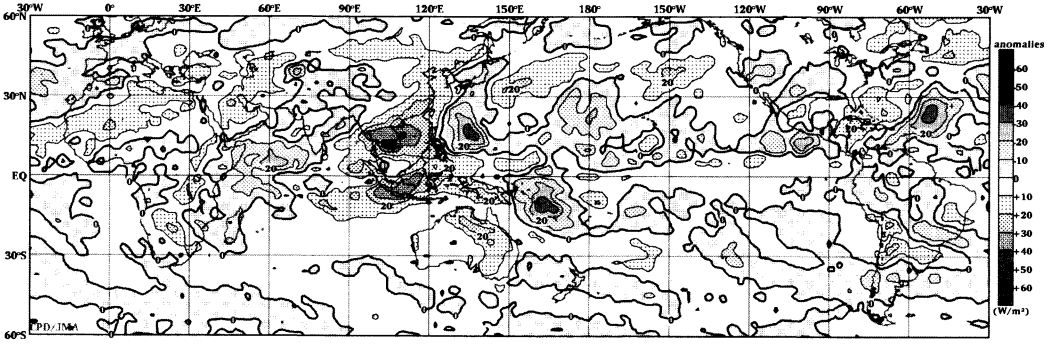
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 福山幸生)



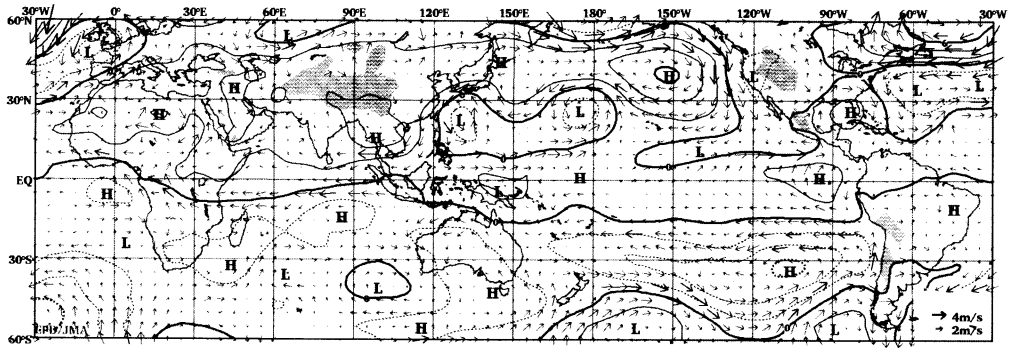
2004年10月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



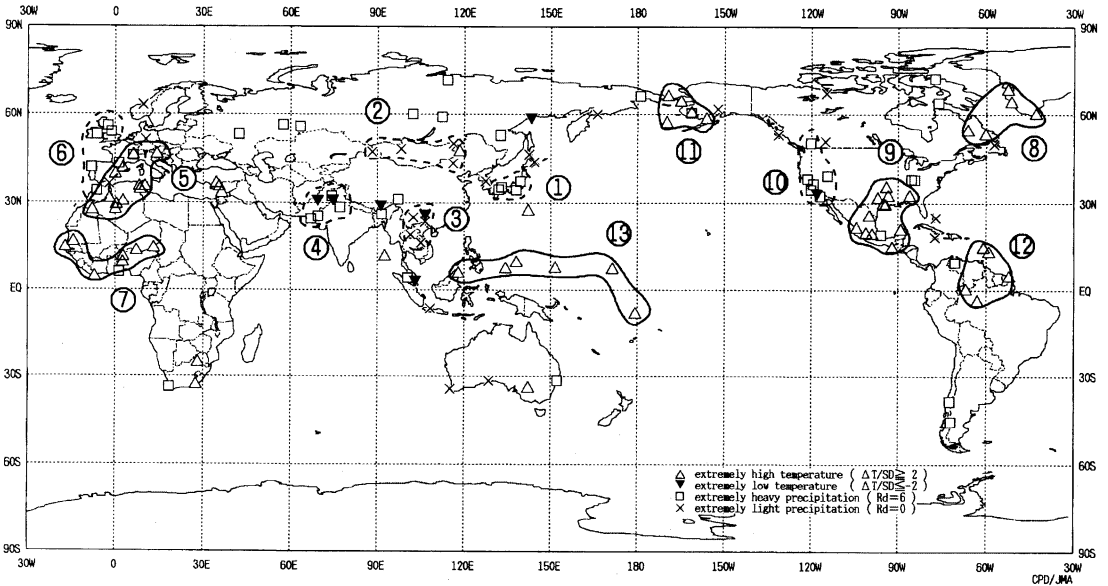
2004年10月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は40 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2004年10月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA, 年偏差は1979~2000年のデータから作成。



2004年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2004年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している。